

令和5年3月23日(木)

まず初めに、14年ぶりに世界一になったWBCでの日本代表のプレーは我々に勇気を与え、最後まであきらめない姿勢に感動しました。大谷選手の活躍、村上選手の不振の中でのホームランなど名場面がありましたが、私が注目した場面は、代表選手が終了後に相手チーム、ファンに対して脱帽の上、深々と礼をして敬意を示したこと、使用したベンチをもとの状態よりもきれいにする礼儀の2つが日本文化、日本人の精神が表れたすばらしい行動ではなかったかと思っています。プレー以外での行動を海外メディアが「リスペクト以外の何物でもない」と表現し称賛しました。また、「日本では人と人との間に信頼感がある。それは、相手に対するリスペクトから生まれるものである」と報道しています。これは、みなさんの学校生活、学級、学年、部活動など集団生活にも通ずるものがあると思っています。是非そういう視点で番組を見ていただければと思います。

さて、「挑戦」と「想いを形に」をキーワードにスタートした令和4年度も最終日となりました。特に3学期は、約束事や授業への取組み、部活動や係活動への取組みなど、何事にも「徹底」して取組んでいきましょうとお話しさせていただきました。その場の雰囲気にならず、先を見据えて取組むことができたでしょうか。

私がすばらしいと思ったこと、2つ、お話をしたいと思います。

まず1つ目、3学期の大きな行事であった卒業式へのみなさんの取組みです。2年生の式歌は、卒業生への感謝の気持ちが前面に現れたすばらしい式歌でした。1年生も各学級でしっかり式に参加し、立派な態度であったと担任の先生から報告がありました。1,2年生の皆さんに改めて感謝します。ありがとうございました。

卒業生が一生の思い出を創れたことは、本当にうれしく思います。合わせてうれしかったことは、卒業式終了後の式場の後かたづけを短時間で素早く行ってくれたことです。特に2年生には郡山第五中学校を背負っていく最高学年としての心意気を感じることができ、とても心強く思いました。

2つ目は、五中生が下校時に坂道で倒れていたお年寄りを助けたり、落とし物を交番に届けたり、近所の方が困っているのを助けたりと自分の時間を犠牲にして人のために尽くしてくれたことです。思いやりのある心優しい生徒が五中にはたくさんいることがとてもうれしかったです。また、1学期に橋から跳びよりようとした女性を助けてくれた高校1年生も五中の卒業生でした。すばらしい行動だと思います。

このように今年度を振り返ってみると、みなさんは、それぞれに「想いを形に」表すことができた1年だったと思います。

さて、先ほどみなさんに修了証書を渡しましたが、今日、このあと配付される通知票には、みなさんの1年間の努力の足跡と担任の先生方の温かい励ましが、記載されています。反省すべきことは、改善に努め、良いところは、さらに磨きをかけて伸ばせるよう、新たな気持ちで新年度を迎えてほしいと思います。

新年度は、お互いに「支え合い」「励まし合い」「高め合う」学校を目指し、「新たなチーム五中」を創り上げていきましょう。卒業生が残してくれた功績をさらに深化させ、特に、元気なあいさつと清掃を一生懸命に取組み、人間性を高め、自分を磨いてほしいと思います。

最後に、明日から春休みに入ります。学習面での1年間の総点検と新しい学年を迎える準備をお願いします。そして、無事故で新学期を迎えるようにしてください。